



御嶽神社の集合碑

御嶽神社～白子神社～岡千手観音～伏熊を通る稚児道
沿いや脇街道沿いにあった碑が集められた

湯殿山供養塔の数も、伊勢講の碑と同様、28基を数えませんが、元々の場所は現在建立されている場所とは限りません。昭和30年ころから、町内の道路拡張や耕地基盤整備事業に関わって、神社や寺院の敷地に集められた例もありますので、若干の位置変更があると確認されています。しかし、位置を変更するにしても、他村に移動するということとは少ないようです。また、三山信仰の中で石碑として残されたものは、湯殿山が多いのも、この町の講中碑の特徴となっています。

巡拝塔というのは、湯殿山参詣を33回巡った証拠の碑で、個人の参拝数のもものもありませんが、大方は講中全体での参拝回数か、巡拝堂宇の数であろうと考えられます。また、最上三十三観音参拝に比べて、川西三十三観音巡拝は新しい信仰のためか、巡拝碑はほとんど見当たらないというのも面白いことです。

【用語の説明】
堂宇・堂の建物のこと。
※引用 中山町史 中巻
第10章第1節 庶民と信仰

私たち地域おこし協力隊です！ No.29



皆さんこんにちは、地域おこし協力隊の伊藤です。

最近ふとした瞬間に、幼少期の中山町での出来事を思い出します。

私は、山形市出身であるため、幼少期から中山町を訪れることがよくありました。

さまざまな思い出がある中で、今でもすごく印象的なのは、「ひまわり温泉ゆ・ら・ら」での思い出です。小学生の夏休みに、祖父母の家によく遊びに行っていたのですが、毎年お盆になると、親戚が大勢集まります。ある年のことですが「ひまわり温泉ゆ・ら・ら」の日帰り温泉に行くことができました。当時小学2年生であった私は、温泉に手を入れた時の熱さにビックリ！家族や親戚が気持ちよく温泉に入中、私は温泉に入ることができないまま、ずっと湯船を眺める始末。家族や親戚が全員湯船から出て、脱衣場に向かおうとした時に、私だけ体が冷えたまま帰るのは嫌だと思い、必死になって湯船に飛び込んだのを覚えています。

今思い返すと、それ以来、温泉の温度が高めであっても、気持ちよく温泉に入れるようになりました。社会人になってから、県外の温泉に入る機会が増えましたが、温泉の魅力を知るきっかけになった「ひまわり温泉ゆ・ら・ら」は、いつの間にか私にとって特別な場所になっていたと感じています。

皆さん、ぜひ「ゆ・ら・ら」で家族や親戚、友人との思い出をつくってみてください。

家族や親戚との故郷での思い出は、過ぎ去ってみると宝物だったのだなと感じる今日この頃です。

●協力隊への問い合わせ先● メール：nakayamanonaka@gmail.com 事務所：中央公民館2階